

第 5 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 会 議 録

日時:平成 21 年 9 月 15 日(火)
14 時 00 分から 16 時 30 分まで
場所:田辺市役所 本庁 4 階 第 1 委員会室

1. 開会

(1) 田辺市建設部 より挨拶

田辺市建設部	・ 本日は、第 5 回田辺市都市計画マスタープラン策定委員会にご参集下さいまして、誠にありがとうございます。 ・ 今回は、「まちの将来像」「まちづくりの方針」「2 つの地域別の構想」等について、ご議論していただくことを考えております。 ・ 皆様の活発な議論をいただくことをお願いし、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。
--------	--

(2) 委員長あいさつ

委員長	・ みなさんの活発な議論を頂ければと思います。
-----	-------------------------

2. 議事

(1) 策定委員会(第 4 回)の内容について

(資料) 第 4 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

《質疑応答》

- 特になし -

(2) 策定委員会(第 5 回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第 5 回)資料

.まちの将来像(案)

.まちづくりの方針(案)

《質疑応答》

委員	・ 「環境負荷」、「建物の高度化」、「天神崎の自然地」の表現がわかりにくい。表現を変更するなどの対応をお願いする。「環境にやさしい」、「建物の高層化」といった表現はどうか。
事務局	・ ご指摘を踏まえ、再考させて頂く。
委員	・ 10 年から 20 年後を考えた場合、もう少し強調すべき事項があると思う。省エネルギー(太陽光や風力発電)、防災(地震や津波)ということは強調すべき事項だと思う。
委員長	・ 環境都市として、青森市ではコンパクトシティを掲げ、歩いて暮らせるまちづくりを行っている。個人的には、風力発電は過疎部、太陽光は都市部で多く実施させているような気がする。東南海・南海地震は、将来必ず来るものであり、和歌山県の特性を見据えて、記載を検討する必要があると思う。
委員	・ 政権が交代して、地方公共団体の財政にどのような影響があるかが、心配である。都市計画道路網の整備や三四六公園の整備は、予算面などは確保できているのか。

委員長	・新しい政府では、これまでの補助金を廃止して、一括交付金にはなるが、不透明な部分も多く、予算面も確定できないと思う。 ・本会議は、都市計画マスタープランについて議論をするため、予算面も重要だが、ビジョンに重きを置いて、議論して頂ければと思う。
事務局	・エネルギーについては、市としては太陽光発電の個人住宅への支援などの記載は難しいと思うが、再考する。災害については、防災の専門部署があるため、ご指摘のことを踏まえ、専門部署と協議するなど再考する。 ・道路整備は、都市計画道路網を中心に考えている。実際の整備に際しては、国、県、市など整備主体が違うこともあるため、予算面のことは回答できない。三四六公園については、調査費の予算を確保している。
委員	・防災に関して差をつけるべきではないが、東南海・南海地震の被害想定は一般の火災などの災害での被害と明らかに違う。このため、もう少し、骨太の計画になればと思う。 ・省エネルギーは、記載があるが、予算の有無に関わらずビジョン（方向性）として抽象的な表現でもいいので、骨太にしてほしい。
委員	・市役所や消防署は最も重要な防災拠点と思う。市役所の耐震性ととともに、施設の立地の位置からも津波や火災時において、適切な救援活動ができるか不安を感じる。
事務局	・施設はいずれも新耐震基準に基づくものではない。消防署は、充分ではないが一部耐震補強を行っている。庁舎は、利用できなくなったケースを想定したソフト的な対応について防災部局を中心に検討している。 ・国などの財源に注視しながら、近年では小学校の耐震化を重点的にやっている。また、防災面に関する骨太の計画については、再考する。
委員	・「安全・安心の都市づくり」と掲げており、市役所が耐震補強もできていないのでは少しどうかと思う。予算の有無に関わらず、夢を実現する計画として、防災面に関する記述を強調してほしい。
委員	・地震や津波の議論があがっているが、個人的には洪水も気になる。都市防災対策において、河川整備を明記してほしい。
事務局	・河川整備は掲げている。ご指摘を踏まえ再考する。
委員	・防災のソフト対策について、防災・行政メールの現状、メールが使えない方への対応、民間企業（ラジオ）との協力体制を確認したい。
事務局	・防災行政無線のデジタル化を行っている。ご指摘の詳細内容は、防災の専門部署で把握・検討しているので、専門部署と協議するなど再考する。
委員長	・それと少し関連することだが、災害時も重要だが、事前の避難訓練が重要だということが和歌山市の実験でも明らかになっている。
委員	・今年は、浸水や土砂崩れの被害があった。浸水区域の解消の具体的な内容をできれば聞きたい。今回、土砂崩れした区域は、十分な行政指導ができていたのか。また、今後の宅造規制などの規制強化の方針などをできれば聞きたい。
事務局	・浸水区域の対策については、背戸川都市下水路の一部改修と江川都市下水路のポンプ改修を予定している。また、今回被害にあった区域については、別の部署で調査に着手予定である。 ・宅地造成等規制法は、既にかなり厳しい規制であり、法に基づいた宅地造成を県と協力しながら促していく。また、急傾斜地崩壊危険箇所やその周辺において、安全対策を行うことにより、災害防止に努めている。
委員	・マスタープランであるため、これでもいいかもしれないが、災害の被害者の中には高齢者・障害者も多く想定されることから、高齢者等に焦点をあてた緻密な計画をもって頂ければと思う。
事務局	・マスタープランであるため、ご指摘の詳細な内容は表現することは少し難しいかと思うが、他の専門部署と連携しながら、防災対策を進めていきたい。

(3) 策定委員会(第5回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第5回)資料
地域別の構想(案) 中部地域

《質疑応答》

委員	・「建築物の不燃化に関する誘導規制」とあるが、防火地域の指定を考えているのか。
事務局	・そうしたことも含め検討していきたい。
委員	・「一方通行が多い」(道幅を拡げる?)と「城下町特有のまち並み」(細い道路の保全?)との表現があるが、その両者の関係を市ではどのように考えているのか。 ・扇ヶ浜のストリートスポーツ施設は、利用者は非常に少ないと感じる。それでも、機能充実を図るのか。環境に配慮して、緑化を検討してほしい。 ・高山寺も歴史文化資源であり、記載をお願いします。 ・「城下町特有のまち並み」があるが、まち並みは残っていない、残っているのは、街路のみと思う。表現の変更をお願いします。
事務局	・幹線道路の整備により、生活道路(城下町特有のまち並み)への通過交通の流入は防げると考えている。全ての道路を拡幅することは考えていない。 ・扇ヶ浜のストリートスポーツ施設は、イベントの開催など土日や夜間は若者でにぎわっている。海水浴場の利用者数も増えており、その機能拡充を見据え、記載している。 ・その他、高山寺、城下町などについては、ご指摘を踏まえ再考する。
委員	・「多自然川づくり」は、表現が難しい。「公共下水道の活用の検討」は、表現がまわりくどい気がする。表現を再検討してほしい。
事務局	・多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出することであり、巻末に用語説明を整理するなどを検討する。 ・市の財政状況から、公共下水道の整備に対する市としての方針が定まっていないため、このような表現としている。
委員	・施策などは、概ね網羅していると思うが、強弱のつけ方や表現の仕方を工夫してほしい。具体的には、若者の流出と高齢化は、今後の田辺市の抱える問題と整理してきた。交流のキーワードとして、駐車場の記載が少ないと思う。また、人を呼んでくる視点でのまちづくりとして、予算もあるが構想(ビジョン)として計画内容を骨太にしてほしい。例えば新庄地域での施設充実や道路網の充実も1つであると思う。
事務局	・若者の流出と高齢化は、都市計画マスタープランより上位の計画で扱う内容も含まれていると思う。決め手となる方策を明記することは難しく、直ちに本計画を充実させることはできないと考える。新庄地域の内容については検討する。 ・駐車場については、以前は不足していたが、現在は以前程ではないと考えており、再考する。 ・ご指摘の表現の強弱については、再考する。

(4) 策定委員会(第5回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第5回)資料
地域別の構想(案) 北東部地域

《質疑応答》

委員	・熊野古道のルートは私が知るものと違っている。世界遺産と混同するため、熊野古道ではなく熊野街道の方がいいと思う。また、ルートの表現を消すことを願う。
事務局	・熊野古道のルートは、田辺市の教育委員会が発行する冊子に基づき記載している。龍神や本宮の入口であり、PRも含め記載しており、教育委員会との協議を行うなど再考する。
委員	・このまま、網羅的でいいのだろうかと感じている。「やるべきこと」と「やらないこと」を整理して、メリハリをつけた計画にしたいと思う。人口流出は避けられない問題だと思う。
委員長	・行政として公平に施策を実施することも非常に重要なことである。このため、事務局案のベースに強弱を検討すればいいと思う。 ・都市計画で対応できる限界もある。しかし、都市全体のビジョンなどについては、この場で発言して頂きたいと思う。
委員	・当初より、よくなってきてはいるが、官と民との考え方は少し違うと思う。民は結果が出なければ終わるという考え方である。官は結果を出す方向では考えるが、結果については民よりも重きをおいていない。 ・行政としては、この計画でもいいかもしれないが、民としては、メリハリは必要だと思う。特に、人口流出は安定的な都市の反映という視点からも、強調すべき事項だと思う。
委員	・市政全般に関わるような大きな内容をこのマスタープランに網羅することは非常に問題であると考えている。子育てや防災については、それぞれ別の計画が同じような会議を踏まえ作成している。 ・子育てや防災など様々な内容について、委員同士が意見を言い合うのではなく、委員意見を踏まえた内容を次回までに事務局が盛り込んできて、計画内容が多くなる状況は如何なものかと思う。 ・事務局は建設部であり、所管として責任の持てる事項は都市計画関連であり、市政全般に関わる事項を協議するのであれば、事務局もそうした組織にすべきと思う。
事務局	・市政全般に関わる事項は、総合計画で位置づけるべきものであり、本マスタープランでは、都市計画に関わる方向性を中心に記載することを考えている。しかし、まちづくりは多くの分野があり、福祉や防災などの意見が出ることも承知しており、様々な意見を頂き、事務局としては都市計画を軸にして、メリハリある記載を再考したいと考えている。
委員	・都市計画に精通していなく、意見がないということが正直なところである。事務局案をあまり批判するつもりはない。予算や公平性などの様々な背景があると思うが、わくわくする夢のある計画が盛り込まれればおもしろいと思う。
委員	・事務局案は専門分野の方が作成したものであり、この委員会では、市民感覚を入れ込む場と考えている。今のご意見は貴重なものだと思う。
委員	・「コミュニティ道路としての整備」として記載のある道路は、幅員が狭いが路線バスが通行している。今整備が進んでいる銀座や海蔵寺の道路へのバスルートの変更などは考えていないのか。
事務局	・ご質問のとおり、バスルートを変更する予定である。

委員	・夢のある計画を考えているが、中部地域では、下水と商業が重要だと思う。商業では滞在時間や回遊性に着目して、エンターテインメント性を強化してはと思う。若者が集まることがある紀南文化会館を活用することも 1 つの方法だと思う。下水については、浸水地域があることを常にイメージしながら、方策転換すればいいと思う。
委員長	・イメージを持ちながら、このマスタープランを作成することは重要だと思う。ある一定のイメージを持ちつつ、他の計画や委員会があるということに配慮するなどの住み分けを行いながら、計画づくりをすることが重要だと思う。
委員	・7 月の大雨による土砂崩れで家が 3 軒被害にあった。マスタープランも重要だと思うが、個別の事案への対応もしっかりして頂きたい。
委員	・北東部地域では、昔に比べると住宅戸数が 5 倍になった。虫食い状態の開発地もあり、道路網の見直しが一番重要だと思う。
事務局	・7 月の雨は局地的な大雨であり、市で事前に把握していた場所かということは、専門部署ではないので、今は説明しかねる。 ・北東部地域は、都市計画区域でありながら、これまで農業サイドの規制があるため都市計画としての土地利用の規制ができていなく、今後の対応を検討したいと思う。
委員長	・こうした委員会では、地元住民などの率直な意見が最も重要だと思う。裁判員制度がはじまった理由は、市民感覚を入れ込むことであり、それと同じである。 ・田辺市の特性を踏まえると、住民は言うまでもないが、個人的には、観光客が来てよかったと思われる都市計画のプランができればと思う。

3. 閉会

事務局より挨拶

以上